



今井 高樹

内戦が終わって四年、
アフリカ・スーダンの南
部では難民キャンプから
人々が戻ってきた。旅す
ると、あちらこちらで新
しい村づくりの光景に出
合う。山道で炭を賣おう

住民の手で村を再建

と軍を止めると、村人が
集まってきた。「村を戻
すにこないか」と言う。「こ
の村は自分たちだけで再
建したんだ」と何やら自
慢げである。

村の診療所と井戸は援

助団体の支援なので「自
分たちだけ」という表現
は誇張だが、見せてもら
った畑は見事だった。キ
ャベツ、トマトなどの野
菜、それに主食用のトウ
モロコシが、畝に沿って



木陰で開かれる職員会議
＝スーダン東エクアトリ
ア州コロムス村

整然と植えられている。
種はどうしたのかと尋ね
ると「難民キャンプから
持ってきた」とのこと。
したたかである。

学校は竹を編んだ壁に
草わらの屋根。六年生二
人が英語の授業を受けて
いた。「先生の半分は村
人のボランティア」と笑
う校長のセビットさん
（左）もこの村の出身。公
務員の給与未払いの問題
により教師のなり手も少
ない。課題は山積してい
るが、村づくりに励む人
々の表情は明るい。

◇
いまい・たかき 北大
卒業後、会社員を経て2
007年5月から、日本
国際ボランティアセンタ
ー職員として、スーダン
南部ジュバに滞在。46歳。